

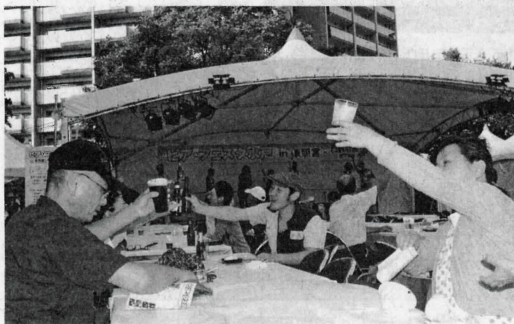
理想の「まちおこしイベント」

水戸の中心市街地で近年、行われている「まちおこし」のイベントがにぎわっている。

9月の「ビア・フェスタ水戸」は、水戸東照宮境内などで世界のビールとご当地肉料理を味わうイベントで、水戸観光協会とNPO法人いばらきKIZUNAプロジェクトの官民が初めて共催した。13、16日の予定が台風で2日間に短縮されたが、約2500人が集まり、ジョッキを傾けた。

KIZUNAプロジェクトは「MITOコン」も手掛けている。事前登録した独身男女が指定の飲食店で飲食を楽しみながら交流を深める「街コン」で、すでに8回実施。4千人が参加し、日本最大の「街コン」になったことも。「二次会」「残念会」で周辺の店に足を運ぶ波及効果も出ているという。

大学生が見た茨城県 ⑦



まちおこしの一環として開催された「ビア・フェスタ水戸」
＝9月、水戸市

ほかに「カレーでまちおこし」をテーマにした「水戸カレーバトル」は、今月に第3回の開催が予定されている。

KIZUNAプロジェクトの木下智和代表は「まちおこしとは何か、誰のためにやるのが大事。街が廃れたのは店や街に興味が無くなったから。まずは自分たちががんばって魅力ある店、街にしないと」と指摘する。そして、「僕は人が来たい、見たい、やりたいと思うようなイベントを企画し、きっかけづくりをするだけ」。

水戸観光協会の堀江博之事務局次長は「活気が戻るためには、一時の盛り上がりだけでなく、余韻の残るイベントにすること」と語った。

人が多く集まれば成功だと思っていたが、そうではないことが分かった。街の魅力を感じてもらってこそイベントは価値あるものになるのだと。魅力ある街、イベントを探してみたくなった。